

# 謹んで年頭のご挨拶を申しあげます

秋田なまはげ農業協同組合 代表理事組合長

佐藤 広美



あけましておめでとうございます。昨年中は当JA事業へ特段のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

昨年は、夏場をピークとして前年に引き続き新型コロナウイルス感染症が猛威を振るいました。人々の感染対策への意識とワクチン接種が進んだことから、新規感染者数が激減している状況ではありますが、新たに変異株である「オミクロン株」の出現により、なほ断は許さない状況が続いております。水稻は、コロナ禍による外食需要の減少が続き、在庫の増加と相まって大幅な概算金の下落となりました。また、果樹においても4月の降霜・降ひょう被害によって和梨の出荷量が大きく減少するなど、園芸品目全般において影響を受けております。

一方で、昨年は、今年秋に本格デビューする秋田米新品種「サキホコレ」の先行栽培と先行販売が行われました。食味の良さを徹底的に追求し、秋田米の最上位品

種と位置付けられ、秋田の地力(ちりよく)の詰まった「サキホコレ」をきっかけとして、秋田米の更なる評価の向上と販路の拡大が期待されます。

また、能代市で開かれた第144回秋田県種苗交換会においては、農事組合法人平沢ファームによるダリア「NAMAHAGEラブ」が農林水産大臣賞に輝いたほか、三浦孝市さんの大豆「リュウホウ」が秋田県農業公社理事長賞を、鈴木作雄さんの日本なし「秋泉」が日本農業新聞会長賞をそれぞれ受賞するなど、管内生産者が持つ栽培技術の高さをうかがい知ることができました。

当JAは秋田県SDGsパートナーとして登録を受けております。持続可能な食料の生産と農業の振興、農業生産における環境負荷の軽減に取り組むとともに、農業の持つ多面的な機能を発揮させ、国内外の多様な関係者、仲間との連携・参画につとめ、安心して暮らせる持続可能で

豊かな地域社会の実現に貢献する団体を目指してまいります。

農業・JAをとりまく環境は一段と厳しさを増しておりますが、組合員の皆さまや多様な担い手の皆さまとの積極的な対話と产地PRによりビジネスチャンスを見出し、付加価値の創出を通じて、農業者所得の増大と農業生産の拡大に努めてまいります。

今後も、組合員の皆さまと地域の皆さまにとつてなくてはならない組織であり続けるために、食と農を基軸とした総合サービスの提供と、自己改革を更なる高みに向けて、役職員一丸となつて取り組んで参る所存です。

結びに、本年も引き続きJA事業に対するご理解とご協力をお願い申しあげますとともに、変わらぬご支援ご愛顧を賜りますようお願い申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。